

令和 3 年 6 月 2 日  
四 国 電 力 株 式 会 社

## 「防災訓練実施結果報告書」の原子力規制委員会への提出について

当社は、「伊方発電所原子力事業者防災業務計画」および「伊方発電所原子炉施設保安規定」に基づき種々の訓練を実施しております。そのうち、原子力災害対策特別措置法第 13 条の 2 第 1 項の規定に基づく報告対象の訓練<sup>※</sup>について「防災訓練実施結果報告書」としてとりまとめ、本日、原子力規制委員会に提出しました。

その要旨については、別紙のとおりです。

### 別紙 「防災訓練実施結果報告書」の要旨

※：原子力災害対策特別措置法第 13 条の 2 第 1 項の規定に基づく報告対象の訓練  
伊方発電所 原子力事業者防災業務計画に基づき実施した下記訓練をいう。

- ・ 防災訓練
- ・ 通報訓練
- ・ AM（アクシデントマネジメント）訓練
- ・ 緊急時対応訓練
- ・ モニタリング訓練
- ・ 原子力災害医療訓練
- ・ 避難誘導訓練
- ・ 緊急時支援組織対応訓練

以 上

## 「防災訓練実施結果報告書」の要旨

令和元年11月19日（令和元年度総合訓練の翌日）から令和3年1月29日（令和2年度総合訓練）の間に、当社伊方発電所等で実施した総合訓練および要素訓練について、原子力規制委員会へ報告した。その要旨は以下のとおり。

### 1. 報告年月日

令和3年6月2日

### 2. 防災訓練実施結果の要旨

(1) 総合訓練（実施年月日：令和3年1月29日 参加人数：246名）

#### a. 訓練目的

- ① 運転停止中（燃料取出し前ミッドループ運転<sup>注</sup>中）における重大事故等の発生の想定においても、原子力防災組織があらかじめ定められた機能を有効に発揮することを確認する。
- ② 昨年度までの訓練結果を踏まえた課題に対する改善活動の有効性を確認する。

注：プラント停止後、燃料取り出し前に1次冷却材系統の水位を下げた状態で余熱除去系統により冷却と浄化を実施する運転。

#### b. 想定事象

- ・ 平日通常勤務時間帯に地震が発生して運転停止中の3号機の使用済燃料ピットの水位が低下する。
- ・ 再び地震が発生して外部電源が喪失。1、2号機は2号機の非常用ディーゼル発電機による給電、3号機は3号機の非常用ディーゼル発電機による給電となる。また、3号予備変圧器において油が流出、火災に至るほか、炉心冷却を行っている一部の補機が設備故障により停止する。
- ・ 3度目の地震が発生し、3号機の非常用ディーゼル発電機1台が停止する。電源喪失により停止中の原子炉冷却機能の喪失となり、原子力災害対策特別措置法10条事象に至る。
- ・ その後、3号機の非常用ディーゼル発電機全台が停止し、全交流電源喪失となり、停止中の原子炉冷却機能の完全喪失により同法15条事象に至る。

#### c. 訓練項目

##### ○ 防災訓練

災害対策本部の活動について実動訓練を行い、非常体制発令・非常招集ならびに原子力災害の状況把握や伊方発電所と原子力施設事態即応センター（災害対策本部（松山、高松））および災害対策本部（東京支社）との情報連携を実施。また、模擬記者会見によるプレス対応、模擬ホームページへの掲載など、各災害対策本部におけるオフサイト活動の確認も合わせて実施。

- 通報訓練
 

伊方発電所における原子力災害の発生について、原子力防災管理者より原子力規制庁緊急時対応センター（E R C）への通報連絡および社内関係個所への情報連絡を実施。また、災害対策本部（高松）から当社発災時の幹事会社である中国電力株式会社に対して、事業者間協力協定事業者への災害状況および支援要請に係る連絡を実施。
- AM（アクシデントマネジメント）訓練
 

過酷事象を想定し、原子力防災要員によるプラント状況の把握や事象進展予測等のアクシデントマネジメント活動を実施。
- 緊急時対応訓練
 

全交流電源喪失事象発生等の事象進展に応じた電源確保や水源確保をはじめとする緊急時対応訓練を実施。
- モニタリング訓練
 

敷地内のモニタリング（模擬）、モニタリングポストの監視、気象情報の収集および可搬型モニタの設置等を実施。
- 原子力災害医療訓練
 

管理区域内で負傷者が発生したことを想定し、負傷者の搬出、汚染の除去および応急処置の訓練を実施。
- 避難誘導訓練
 

発電所構内および伊方ビジターズハウス（当社P R 館）館内の見学者（模擬）に対する避難誘導を実施。
- 緊急事態支援組織対応訓練
 

災害対策本部（高松）から原子力緊急事態支援組織である美浜原子力緊急事態支援センターに対して災害状況および支援要請に係る連絡を実施。

#### d. 訓練の評価

今回の総合訓練では、運転停止中（燃料取出し前ミッドループ運転中）の3号機において地震により全交流電源が喪失し、原子炉冷却手段も喪失などのシナリオを想定し訓練を実施した結果、計画段階で期待した目標を達成することができた。

社内関係個所の各対応要員は、原子力事業者防災業務計画、関係手順等に基づき活動できていたことから、原子力防災組織があらかじめ定められた機能を有効に発揮し、原子力災害対策活動を実施できたと評価した。

#### e. 今後の改善活動

訓練を踏まえて以下の改善点が抽出されたことから、対応能力の更なる向上のため改善活動に向け取り組んでいくこととする。

- ・原子力規制庁緊急時対応センター（以下、「E R C」という）への今後の戦略および機器の準備状況等説明内容の充実
- ・E R Cへの説明資料の充実

これらの改善活動の実施状況について検討を実施し、今年度の訓練において改善活動の検証を実施する。

## (2) 要素訓練

### a. 通報訓練

#### ① 実施年月日、参加人数

- ・令和2年7月7日（午前） 参加人数：15名
- ・令和2年7月7日（午後） 参加人数：15名
- ・令和2年7月10日（午前） 参加人数：15名
- ・令和2年7月10日（午後） 参加人数：15名

#### ② 訓練項目

シナリオ非提示型の通報訓練において、連絡責任者および連絡当番者による通報FAXの作成・送信を実施。なお、社外通報先へのFAX送信および後追い連絡は模擬（社内でのFAX送信およびコントローラへの電話連絡）にて実施。

#### ③ 訓練の評価

通報連絡に関して問題となる事項はなかった。

### b. 原子力災害医療訓練（実施年月日：令和2年10月22日 参加人数：15名）

#### ① 訓練項目

管理区域内で汚染を伴う傷病者が発生したと想定し、応急処置の実施、救急隊（公設消防）受入れ、医療機関への搬送を実施。なお、負傷者の搬送および医療機関への情報提供等については、関係自治体および医療機関等の関係機関との合同にて訓練を実施。

#### ② 訓練の評価

原子力災害医療に関して問題となる事項はなかった。

以上